

# 社エスエイ 教育ロボ第2弾

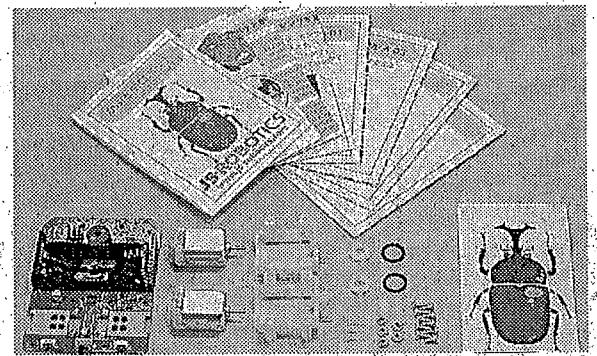
## プログラム作成 複雑な動作可能

ロボット開発ベンチャーの社エスエイ・ロボテイクス(茨城県牛久市、佐藤仁社長)は自分で操作プログラムを作る教育用ロボットを開発、8月から販売を始める。昨年に販売した「てんとう虫ロボット」に続く第2弾商品。コンピューターを動かす仕組みを簡単に理解してもらおう学習教材として教育機関などに売り込む。

新たに開発したロボの名称は「かぶと虫ロボット」II写真。専用紙のマップを黒と白で塗り分け、センサーに読み取らせると、黒白の配置がロボ

ットを動かす命令になる仕組み。パソコンがなくともプログラム入力的基础を学習できるのが特徴だ。

前回のてんとう虫ロボと違い、発光ダイオード(LED)や音声センサーなどどつなぐことで、複雑な動作設定が可能。



別売りのUSB接続基板を使うことでパソコンに接続し、独自のプログラムを組み立てることもできる。高校や専門学校な

ど学生向けのシステム開発の練習教材としても活用できるとみている。

長さ6センチ、幅8センチ程度の小型ロボで単4電池2本で稼働する。価格は本体基板が5880円。別売りのUSB接続基板が2980円となる。インターネットなどを通じて販売するとい

う。同社が昨年に開発、販売したてんとう虫ロボは国内だけでなく、インドやフィリピンなど海外の教育機関にも販売。計約700台を出荷した実績がある。

# “昆虫型ロボ”高機能版開発

ロボット開発のジェイエス・ロボティクス（牛久市、佐藤仁社長）は20日、科学教材向けに昆虫型の小型ロボットの新製品を開発したと発表した。無償公開のオープンソフトに対応し、自社製品として展開している従来品より可動性やソフトとの連携を高めたのが特長で、高等教育の教育機関に販売を広げる。

製品名は「かぶと虫ロボット」。長さ約6センチ、幅8センチ、高さ3センチ、重さは約53グラム。コンピュータの小型基盤に振動モーター、赤外線センサーを組み合わせ、パソコンがなくてもプログラ

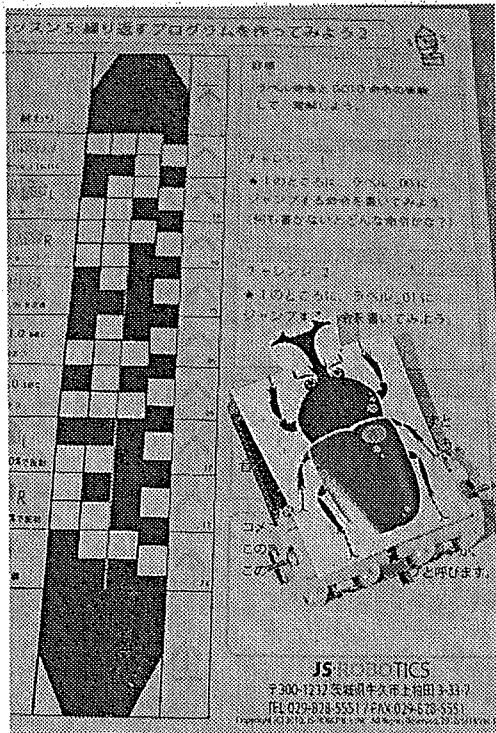
## ジェイエス・ロボティクス

ムにより自由に動く。駆動部分をタイヤで動くようにし、従来品よりも動きが良くなった。

内蔵プログラムや使用者の手作りによるプログラムをロボットに読み込めることで、64通りの複雑な動きを楽しめる。

教育用として、紙に描いた白黒の模様を赤外線センサーで読み込んでプログラムを作れるため、高校生らの学習に使うことが可能。またUSBの接続機器を使えば、本格的なオープンソフトのプログラムも取り込める。プログラム書き込み用のシートも製作した。価格は5880円。

（綿引正雄）



カブトムシ型の教材用ロボットとプログラム学習用のシート

# かぶと虫ロボット開発

## ベンチャー技術発表会

つくば

### PCなしでプログラミング

つくば市内を中心とした大学や研究所、地元ベンチャー企業などの技術交流と活性化を目的にしたベンチャー技術発表会が20日、同市千現のつくば研究支援センターで開かれた。2006年に設立され、ロボットの開発、製造販売などを手掛けるつくば発ベンチャーのジェイエス・ロボティクス(牛久市上柏田、佐藤仁社長)は、ロボット教材の「かぶと虫ロボット」を初公開した。

(齊藤聡)

かぶと虫ロボットとジェイエス・ロボティクスの佐藤仁社長。つくば市千現のつくば研究支援センター

発表会は筑波大学と産業技術総合研究所、同センターが共催。今回はつくば発ベンチャー2社と産総研発ベンチャー1社が、新技術や新製品、新たな取り組みについて発表した。

かぶと虫ロボットの利用は、小学校高学年から専門学校までのもの作りやロボット教室、組み込みソフトウェア技術者が対象。同社が開発した教材用ロボットでは、昨年の「てんとう虫

ロボット」に続き2作目になる。

パソコンを使わずにプログラミングができるのが大きな特徴。名刺より一回り大きい本体に単四電池2本と四つの赤外線センサー、左右に2個のモーターを備え、車輪で動くことができ

あらかじめ16種類のプログラムが組み込まれているため、プログラミングしなくても利用できる。さらに紙に書いた白黒模様のパターンをセンサーで読み込ませることで、プログラミングを段階的に学ぶことができる。プログラム命令数は64種類になる。

佐藤社長は「かぶと虫ロボットは、思わぬ動きをする。『どっしてだろっ』と興味を持ってもらいたいとの思いで開発した」と話した。

かぶと虫ロボットは1個5880円で、8月から東京・秋葉原のロボット関連ショップで販売する。年間1000個が販売目標という。

